

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600609		
法人名	有限会社 ニフコ		
事業所名	グループホーム 田舎		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町沓井 603		
自己評価作成日	平成29年11月10日	評価結果市町村受理日	平成30年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/idx.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&ji_gvosyoCd=2172600609-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな田園風景に囲まれた伝統的な日本家屋という住み慣れた住環境です。長いご利用の中での身体能力の低下は否めませんが、かかりつけのクリニックの往診、看護職員と介護職員の連携を密にし、医療面でのサポートを充実させ、ご利用者・ご利用者家族に安心して健康にお過ごしいただけるように努めています。利用者とスタッフがあまり気をはることなく自然体で一日一日を楽しく過ごしていけるような場でありたいと思い、日々、業務の中で気付いたことを話し合い改善に努めています。

日本家屋の利点を生かし、昔ながらの建具に囲まれ、縁側での日向ぼっこが出来る。ガラス窓も転倒で割れる危険性があるが、広い縁側でのくつろぎの大切さを重視してそのまま利用している。室内の段差の工夫や、トイレ内ゴミ箱の工夫、車いすでの廊下移動時におきる転倒防止の工夫などいろいろの場面で危険防止の工夫がある。自分で食べることの大切さを重視し、食事テーブルへの工夫や小さな食事板の設置などを行い、介助が必要な人にはマイクを工夫し音により飲み込み確認をしている。食物はできるだけ近隣の物やここで出来た野菜などを使用し、家庭的な食器を利用している。遠来の客や家族が看取り時には、宿泊の用意をしている。利用者が慣れ親しんだ環境で、安心して日常生活が送れるように支援している事業所である。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議や地域の方々との話し合う場を通じて、高齢者の在宅での暮らし、在宅医療介護の在り方などについて共に考え、語り合う場としている。	理念の実践として、利用者が楽しく毎日を過ごせるように介護することを職員に伝えている。職員はレクリエーションの時にも、気分を高め楽しくできるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方から野菜を頂いたり、溝サライへの参加など地域の人々と交流している。運営推進委員会を通じて高齢化問題や防災の問題について話し合っている	散歩時に近所の人と挨拶をし、仲良くお付き合い出来るようにしている。自治会に加入し、小学校の安全見守り隊をしている。年末には近所の人々が事業所の『お蕎麦会』へ参加してもらえるように企画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の校外学習の場を提供し、介護や人権、家族、人生について語り合っている。児童養護施設児童のインターンシップを受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、地区の福祉委員、民生委員などと高齢問題、認知症問題について話し合い、それぞれの意識や提供サービスの向上を図っている。	運営推進会議で認知症の話をして理解を深めてもらい、また委員からは過去にあった近くの川の氾濫の話や聞き、水害についての災害対策を検討している。しかし、開催が4～6か月に1回程度である。	地域と連携し密着した運営を行い、地域に開かれたサービスとして質の確保・向上を図るために、おおむね2か月に1回定期的に開催してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表者は認定審査会などに参加し、役場や揖斐広域の担当者とは日常的に接触。入居者やスタッフの状況について報告相談し、様々な助言を得て事業を進めている	現在や10年後の地域の高齢化についての話や、特養入所・事業所の空き情報などの実情を伝えている。事業所の地域性について話し合いをし、理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について日常的にスタッフと話し合うことを通じて身体拘束への理解を深め人権意識を高めている。	拘束について勉強会をしたり、管理者は個別に話をしたりしている。椅子の後ろに物を置いて動かないようにすることなどが身体拘束にあたること話題として取り上げ、全員で理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	難しい法律論でなく具体的に「どのような意識や行為か？」など日常的な平易な話し合いを通じて理解を深め人権侵害や虐待の防止に努めている。スタッフも研修に参加している。		

グループホーム 田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者や管理者は権利擁護について、積極的に外部識者や社会福祉士と話し合い学ぶ機会を持つよう努めている。持ち帰って日常的にかみ砕いて職員に伝えるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、できるだけ多くの家族や関係者に対して十分に説明し、入居に際しての理解と納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が管理者とできるだけ本音で話せるような関係作りに努めている。毎月末の請求書を個別訪問して要望、苦情を聞き取っている。ターミナル期について相談されることが増えたので丁寧に繰り返し説明している	管理者や計画作成担当者が、月に1回自宅を訪問している。家族に利用者の健康状態など細かく伝えながら、意見や要望を聞いている。利用者にはゆっくりとした個別の時間を作り(入浴時など)話を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日常の細かい業務についてスタッフの意見を出来るだけ取り上げ、仕事にやりがい感を得られるように努めている。(長期の雇用を通じて相互の信頼感がある)	職員と個別の時間を作って話を聞いている。勤務時間の希望や、介護現場での困りごとや提案などを聞き、対応している。廊下の椅子転倒防止板や、トイレ内の排泄物入れなど工夫して対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況や能力の向上を積極的に評価し、合理的で働きやすくやりがいのある職場環境をつくるために努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる講習会を紹介し、参加を呼びかけている。講習会の参加費用の一部または全額を助成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の市町村の勉強会、地域の福祉事業者や地域のケアマネ研修会に参加し、意識とスキルの向上を目指して情報交換をしている。得た情報をスタッフに伝えスキルアップを目指している		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より在宅時の生活状況や趣味、嗜好を聞き取りするなどして本人が安心して暮らしていける環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族親族の間に適度に介入し、本人と家族を一体的に支えることを目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	急激な生活環境の変化を緩和するため、デイユースやショートステイの利用など個別に臨機応変に柔軟に対応、できるだけ抵抗や不安感の少ないサービス導入を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が有している生活力を尊重した施設を目指す、現実的にはADLの低下とリスクから厳しい部分もある。引き続き 利用者の生活力を見い出すよう努めていきたい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の理解を得ながら、短期間家族宅で暮らすなどすることを提案し家族との関係の維持に努めている。家族の都合を考え、面会時間の自由度を高めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解を得ながら、短期間家族に戻り暮らすなどすることを提案し家族との関係の維持に努めている。地域の行事や馴染みの方々との面会を提案し実施している。	親戚の来訪や、遠来の客には事業所での宿泊が出来ることをつたえ、寝具を用意している。家族と協力して100歳の受賞を近所の人とともに祝ってもらおうと、自宅への一時帰宅を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を注意深く観察し、お互いが生活の質を高めあえるような関係を築けるよう見守り支援している。利用者間のいざこざも社会的な刺激と見守っている。		

グループホーム 田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居された方を訪問したり家族との連絡を適度にとっている。スタッフと話し合い自施設の在り方について前向きに話し合う材料としている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって できるだけ居心地のよい場所、健康に安心して暮らす場でありたいと考え、その実現に努めている。本人が目標を得られるよう支援している。	思いや意向が十分に伝えにくい人には、二者択一方式にしたり、日常をよく見守ることで思いを把握している。生活歴から考慮したり家族に聞いたりして出来るだけ思いが実現するように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や嗜好を家族からの聞き取りなどや日々の観察で把握し、暮らしやすい環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察、記録し スタッフ間で相談しながら生活力、ADLや生活力の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者やスタッフで話し合いながら 介護計画を作成している。また現場のケアの中でも活発に意見交換している。	本人の思いや家族の希望を聞き、皆で話し合いながら計画を作成している。食事摂取が難しい状態から、飲み込みを確認し家族の了解を得てその都度計画を変更し、自力で摂取できるようになった事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況健康状態を観察記録し、管理者スタッフ間で相談協議し、日々の介護に実践しケアのレベルアップに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出レク、緊急時の病院送迎など、利用者や家族の状況、状況に応じて臨機応変に柔軟、迅速に対応している。		

グループホーム 田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店の出張による整髪や園芸ボランティア、散歩の同伴など軽度の身体レクをお手伝い頂いた。緊急性のある利用希望者にGH協議会で一緒に近隣のGHを紹介した		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	症状に応じて本人あるいは家族の希望する医療機関で受診している。施設かかりつけ医に定期的な受診をお願いし、利用者の状況を把握。日常的に見守って頂いている	希望する主治医を選ぶことができる。整形外科等の専門医受診時には家族へ情報を伝えている。受診後の情報は職員間で共有している。状態変化時は24時間連携が取れ、適切な医療が受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し常時連絡を取りながら利用者の日々の健康的な生活を見守っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	疾患が重篤となった場合や様々な予後の状態を想定して出来る事と、家族側が必要な事柄についてそれぞれ具体的に説明相談している。運営推進会議においてよく終末期の話題を取り上げている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤となった場合や様々な予後の状態を想定して出来る事と、家族側が必要な事柄についてそれぞれ具体的に説明相談している。運営推進会議においてよく終末期の話題を取り上げている	入居時に本人や家族の意向を確認している。重度化してきた場合は自宅、病院、施設、事業所での看取り等、その都度家族と話し合い意向に添って対応している。月に1回自宅訪問時にも意向を聞いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	代表者は救急救命講習を受講済み、日常的に様々な場面で救急救命法や急変時の対応について説明し、スタッフ全体のスキルアップに努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時の避難方法について、日常的に考え話し合い、定期的に避難訓練を行っている。運営推進会議などを通じて協力体制の構築を目指している。トリアージに関して話し合っている	地域の人参加の避難訓練がある。川が近いので水害が想定され、2階への避難訓練、緊急通報システムや職員の連絡体制がある。備蓄品があり自家発電機を所有している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活史と人格を尊重し対応をするよう努めている	車椅子用トイレは介助を行う際にカーテンが開いてしまうため、二重カーテンにするなど、職員の気づきから工夫してプライバシーの確保に努め、常に人権の尊重を意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の思いを聞きだす為に努力している。思いを上手く表現できない場合は適切な選択的な質問を行い 自己決定を促す努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を尊重し日々様々な暮らし方を利用者それぞれが実現できるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	安全と清潔と健康に配慮し、適切な身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の茎の皮むき、筋取りなど下ごしらえなどお願いしている、台拭きやエプロン畳みなどできることをして頂いている。	管理者は食べることは元気の素と考え、食事はすべて手作りをし自家栽培の無農薬や地産地消の食材を使用している。利用者が自分で食べられる楽しみを支援するために、机などを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー、摂食量を管理、必要に応じて個別に水分のインアウトや分割食など行い栄養と水分の摂取を管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。毎晩入れ歯の洗浄を個人の状況に応じて指示、見守り、全介助で行っている		

グループホーム 田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンと能力、状況に応じて適切な排泄介助を行っている。固定的に独断的に考えず様々な変化に応じて柔軟に見直すよう努めている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けに注意しておむつ使用を減らしている。食物繊維の多い食材の摂取や、散歩等の運動を取り入れトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に出来るだけ頼らない自然な排便を目指している。食物繊維の多い食材の積極的な摂取、適度な運動、座位保持を行ったり漢方系のお茶などを服用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	庭に柚子が沢山なるので冷凍保存し、通年、入浴時使っている。ゆっくり温まりたいなどの希望をできるだけ聞き入れて入浴していただいている	湯温や順番など好みの入浴の他、足浴もしている。日替わりで庭先の柚子や近くの池田温泉の入浴剤などを楽しんでいる。職員は、ゆっくりと話をしながら入浴介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人と同居者の安全で健康的な生活を優先し、それぞれの希望や生活習慣を配慮した就眠環境作りに努めている。それぞれによって消灯時間は異なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者カルテに薬剤の説明書をファイルして薬剤の詳細について情報を共有している。降圧剤など取扱に注意を要するものはことあるごとに事故例を上げ何度も説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの生活歴や趣味嗜好を家族との話しや日々の生活の中から見つけ出し生活に彩りをあたえる支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や畑、施設周辺の散歩や、気分転換の為、近場の観光地へのドライブなどを入居者の体力を考えながら行っている。できるだけ毎日散歩に努め体力気力の維持向上に努めている	生活歴から知った場所や、ひまわり畑の見学、ドライブなどに出かけている。田んぼ道を散歩したり、八幡神社へのお参り、神社で行う『どんど焼き』などに参加している。	

グループホーム 田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を使うことはなかなか無いが、チラシを見ながら野菜の値段を話すなどして金銭感覚の保持に努めている。可能であれば外出時に金銭を使用するサポートをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶状や年賀状を書くことを支援している(表書きはスタッフ)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの生活環境を配慮した在来木造田舎造りの家屋を施設として利用しつつ、生活上の安全を考慮した改装を行い、また利用者の状況に応じて随時、造作改修を行い安全の維持と健康な生活環境の実現に努めている	各部屋のドアは昔のガラス付の引き戸に取っ手をつけ、飛散防止のシートを張って生活歴に近い風情を活かす工夫をしている。テーブル周りをクロスで覆いこたつ風にしたり、クリスマスの飾りつけがしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日本家屋は比較的死角の多く、利用者はそれぞれ『お気に入り』の場を見つけることができやすい。スタッフはそれぞれの居場所を尊重した介護に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全が確保できる限り 本人が慣れ親しんだ物品を持ち込み 安らかに気持ちよく暮らせる様にと考えている	布団は本人が自宅で使っていた布団を使用している。時計やテレビ、カレンダー、ぬいぐるみなど自宅に置いてあったものを居室に持ってきて居心地良く暮らせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、トイレへの経路などを入居者の視点を考え見やすく表示している。体格や状態に応じて支えることのできる手すりを設置している。		